

4月は果樹の生育が盛んになると同時に、病害虫の発生も本格的に始まります。果樹の生育状況や園内の様子をこまめに確認し、防除適期を逃さないようにしましょう。今回は、特に各種病害の重要な防除時期となりますので、発芽時期や開花期前後の防除を徹底してください。

「果樹全般」

●果樹カメムシ対策

今年はチャバネアオカメムシの越冬量が多く、カンキツの花やウメ、スモモ等の果実に被害が出るおそれがあります。園内をこまめに観察し、果樹カメムシ類の飛来が確認された場合は薬剤による防除を実施してください。詳細については今月号に佐賀県農業技術防除センターによる特集記事が掲載されていますので、そちらを参考にしてください。

「露地カンキツ」

●そうか病対策

新葉の展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度の時期）が本病の防除適期であり、この時期にデランフロアブル1,000倍を散布してください。デランフロアブルにかぶれるおそれがある場合はストロビードライフフロアブル2,000倍を散布しましょう。

なお、ミカンハダニが発生している園地では、97%マシン油乳剤を加用します。マシン油乳剤の濃度は商品や散布時期によって異なりますので、必ず散布予定の商品のラベルを確認してください。展葉初期であれば、マシン油乳剤とデランフロアブルとの混用が可能です。なお、ストロビードライフフロアブルについては、マシン油乳剤と混用する場合、3,000倍とします。

●かいよう病対策

発芽前から5月頃までが本病の重要な防除時期です。本病にかかりやすい品種（中晩柑類）に加え、昨年温州ミカンでかいよう病が発生した園や風当たりが強い園、幼木園及び高接ぎ園では、4月中下旬（展葉初期）にクレフノン200倍を加用した銅水和剤（コサイド3000 2,000倍、フジドーLフロアブル1,000倍等）あるいはアビオンE 1,000倍を加用したICボルドー66D 60倍を必ず散布してください。

また、発生源となる罹病葉や罹病枝は可能な限り除去しましょう。罹病枝の除去ができない場合は、病斑部を削り、取り除きましょう。

●カイガラムシ対策

昨年は9月以降にナシマルカイガラムシやアカマルカイガラムシが急増し、果実被害を生じた園地がありました。そのような園地では今年も多発生となることが予想されます。冬季や3月にマシン油乳剤による防除を行っていない場合は、4月中にアプロードフロアブル1,000倍にマシン油乳剤97%100倍を混用散布し、まずは第1世代幼虫の発生を抑制します。なお、散布直後に降雨があると薬剤の効果が低下する場合がありますため、天気予報を確認し、散布後2～3日に降雨が無い状態で散布することが重要です。なお、発生が多い場合は4月の混用散布のみでは果実被害を防止することができないため、各世代の幼虫発生期である5月や7月の防除もしっかり行ってください。なお、薬剤抵抗性の発達を抑制するため、アプロード剤の使用は年1回とします。

「ハウスミカン」

●ミカンハダニ対策

収穫2か月前を目安に、ダニゲッターフロアブル2,000倍やダニオーテフロアブル2,000倍、バロックフロアブル2,000倍等を散布ムラがないよう丁寧に散布しましょう。ただし、ダニオーテフロアブルは銅との混用や近接散布で効果が低下するため、銅剤を散布した後は使用を避け、他の剤とします。なお、県内の施設栽培においては各種殺ダニ剤に対する薬剤感受性が低下したミカンハダニが多く確認されています。よく効くからといって同系統の薬剤を何度も使用することは避けましょう。

●アザミウマ類対策

4月下旬頃から、ハウスサイドを開放することでアザミウマ類の侵入が始まり、果実被害が問題となります。侵入を防ぐため、開放部に光反射シート織り込みネットや赤色防虫ネットを設置しましょう。また、ハウス周囲に1～2m幅のタイベックシートを設置するとより効果的です。

アザミウマ類は、種類によって効果のある薬剤が異なるため(表1)、トラップ調査等により種類の確認を行ったうえで、薬剤を散布しましょう。なお、確認方法が分からない場合は、農業振興センター等の指導機関に問い合わせてください。

表1 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	IRAC※ コード	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキイロアザミウマ およびネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル	34	2,000倍	7日前まで
	ディアナWDG	5	10,000倍	前日まで
	スピノエースフロアブル	5	4,000倍	7日前まで

ミカンキイロアザミウマ	ウララ 50DF コテツフロアブル	29 13	5,000 倍 2,000 倍	7 日前まで 前日まで
ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル	21A	2,000 倍	前日まで

※殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

「ナシ」

●黒星病対策

開花前後は黒星病の最も重要な防除時期です。散布する薬剤は生育状況によって異なるため、園内の生育状況をこまめに観察し、時期を逃さないよう薬剤散布を行いましょ（表2）。

スピードスプレーヤーで散布する場合は、①全列走行を行い、葉の表裏両面に薬液をしっかり付着させること、②園の外周部など薬液がかかりにくい場所は手散布を行うことが重要です。また、本病の発生が多い園（特に露地）では、薬剤散布間隔が10日以上空かないよう注意してください。

なお、落葉等が園内にあると菌密度が高くなり防除効果が上がりにくいいため、まだ落葉等が残っている場合は早急に処分を行いましょ。その際、樹の周囲や園の隅に落葉が残っていないかしっかりと確認しましょ。

表2 ナシ黒星病の防除薬剤

時期	薬剤名	系統名 (FRAC コード※)	希釈倍率	備考
開花直前	スコア顆粒水和剤	DMI (3)	4,000 倍	多発生園ではベルクートフロアブルを混用
	アンビルフロアブル		1,000 倍	
	スクレアフロアブル	QoI (11)	3,000 倍	
	アクサーフロアブル	DMI (3) +SDHI (7)	2,000 倍	
交配3日後	ベルクートフロアブル	ビスグアジソン (M7)	1,500 倍	発生が問題となっている園ではDMI 剤を混用
	フルーツセイバー	SDHI (7)	2,000 倍	
落弁直後	スコア顆粒水和剤	DMI (3)	4,000 倍	多発生園では左記の剤にベルクートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤 47 を混用
	アンビルフロアブル		1,000 倍	
	アクサーフロアブル	DMI (3) +SDHI (7)	2,000 倍	
	セルカディスDフロアブル	グアジソン (M9) + SDHI (7)	1,500 倍	
	カナメフロアブル	SDHI (7)	4,000 倍	

●疫病対策

4月下旬から6月にかけて降雨が続くと疫病が発生します。本病は土壌中に生息している病原菌が風雨による土の跳ね返り等によって、新梢や葉の特に柔らかい組織に感染し、新梢や果そう部を枯死させ

ます。

過去に本病が発生した園では、土壌中に本病原菌が生息していると考えられるため、強風雨の後には必ずアリエッティ水和剤 800 倍等を散布しましょう。また、除草作業等は、降雨時や降雨直後に行うと土壌とともに菌を跳ね上げてしまうので、晴れた日に行いましょう。

「ブドウ」

●黒とう病対策

萌芽直前（3月下旬頃）から新梢伸長期（5月上旬頃）が重要な防除時期です。萌芽直前、展葉5～6枚目、展葉8～9枚目頃にデランフロアブル 1,000 倍やキノンドーフロアブル 600 倍を散布します。また、薬剤散布後に累積 150mm 以上の降雨があれば、早急に再散布を行いましょう。

キノンドーフロアブル等は、4月下旬から感染が始まる枝膨病にも非常に有効です。

「キウイフルーツ」

●かいよう病対策

発生の有無にかかわらず、すべての園で必ず防除を行いましょう。発芽前から6月までは銅水和剤による定期的な薬剤防除を行います。発芽前までは I C ボルドー66D 50 倍等、発芽後はコサイド 3000 2,000 倍（クレフノン 200 倍加用）等を散布します。

枝幹から本病によると思われる白色～赤褐色の樹液の漏出がある場合は、発見次第早急に切除し、傷口には必ずトップジンMペーストを塗布しましょう。“ヘイワード（成木）”の場合は、樹液漏出個所から褐変がみられなくなる位置まで遡って枝を切除します。幼木や“ヘイワード”以外の品種については、品種や樹の状態により切除部位や切除程度が異なるため、指導機関に相談して実施するようにしてください。

管理作業による感染拡大を防ぐため、使用した器具や手などは、エタノール 70%や次亜塩素酸ナトリウム 0.02%などの消毒液でこまめに消毒しましょう。

「ウメ」

●黒星病対策

展葉初期および展葉期は黒星病の重要な防除時期です。展葉初期にはトップジンM水和剤 1,000 倍、展葉期にはインダーフロアブル 5,000 倍、ストロビードライフロアブル 2,000 倍、オーソサイド水和剤 80 800 倍等を散布します。